

干害で田んぼの鋤床(すきどこ)が壊れると亀裂から水が漏れて湛水状態の維持が難しくなります。また、亀裂が大きく深い場合は畦や法面が大きく崩れてしまう恐れがあります。稲刈り終了後すぐに、田んぼや周囲をワラをよけてよく観察して被害の程度を把握し、適切な対策を行いましょ。

1 観察の視点

(1)ヒビは田んぼのどこに多いか？

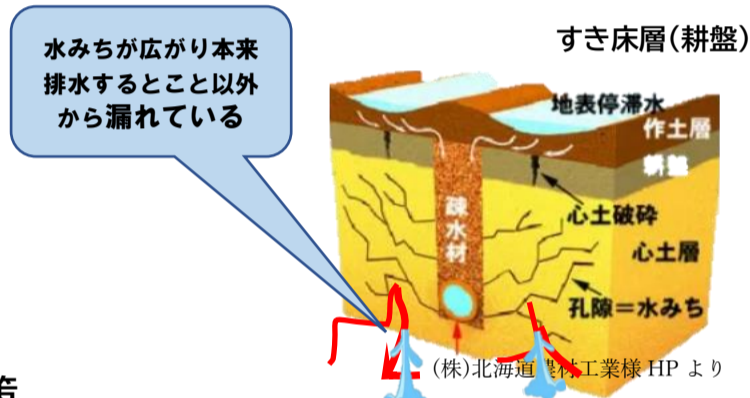
畔際の場合は次年度漏水して、地温が上がらず、稲の生育や除草剤・肥料の効果などに悪影響がでる可能性があります。

(2)水尻側(排水側)の斜面で排水口以外から水が漏れていないか？

右図のとおり本来暗渠が機能する「孔隙(水みち)」が広がり過ぎて暗渠管以外から水が漏れだしていると、(1)のとおり栽培が難しくなるのと合わせて、暗渠が効かなくなるリスクもあります。

(3)次年の用水は十分確保できるか？

補修された田んぼでも代掻きの用水量は平常年より多く必要となります。



2 対策

◎対応は、早い程効果があがります、可能な限り年内に実施してください。

(1)あぜ塗りによる畦畔の補修、突き固めを平常年より丁寧に行う

・漏水に気づかなくとも、畔際に亀裂が入っていることがあります、いつもより丁寧な畔塗を心がけてください。

- ア 畔に草や土を掘り出すのに邪魔なものはとりのぞく。
- イ 脚で踏みつけ空間や隙間をとことん潰してなくす。
- ウ こねて水となじみ柔らかくなった泥を盛る。
- エ 畔塗面を滑らか(凸凹無く)に塗ると強風時の波でも壊れにくくなる。

・畔塗機を使用する場合は、土が手で握って塊になる程度の水分を含んでいると防水性が高まります。

散水機能があれば有効に活用しましょう。畔高に合わせたドラムの大きさや「天場」を押し付けるローラーの直径を合わせしっかり押し固めましょう。



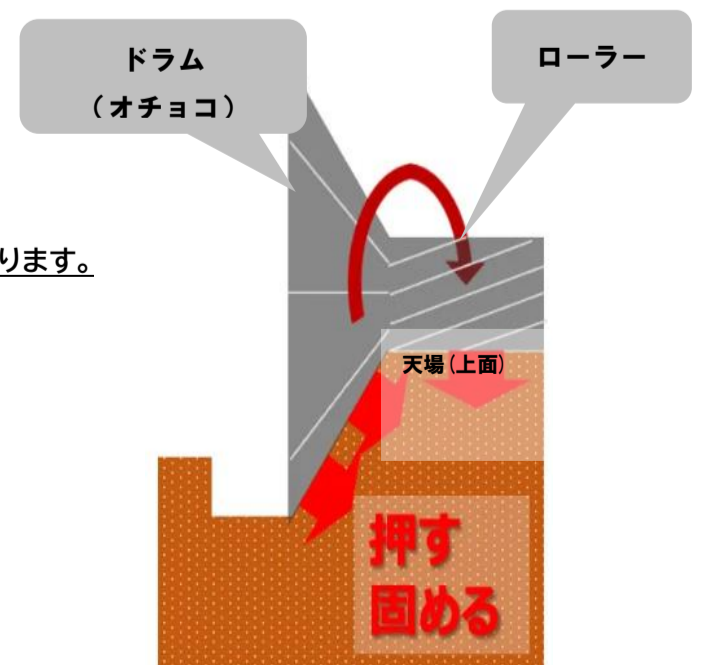
(2)トラクター利用によるあぜ際の鎮圧・丁寧な代かきを行う

重粘土壌の場合は耕起前にかん水すると作業性が向上します。

(用水がない場合は水尻暗渠を閉め雨水を可能な限り溜まるようにし、湿った段階で作業に入る。)

※耕起時に入水した場合は落水する。

- ア ほ場全体をロータリーで耕起(深さ 15cm 程度)する。
- イ 亀裂の入っているあぜ際をトラクターで何回か走行し、タイヤで土を鎮圧する。
- ウ ドライブハローで丁寧な代かき(4回)を行う。



(3)ベントナイトで穴(水みち)を塞(ふさ)ぐ

※佐渡市でベントナイト資材費補助を実施しています。事前に交付申請書を提出し、交付決定を受ける必要があります。

ベントナイトは吸水力に優れ、水を吸うと膨張するため、漏水箇所散布して作土層に混ぜ込むことで孔隙を埋めることができ、漏水防止に有効な資材です。

【使用方法 例】

- ア 亀裂の入ったあぜ際1m間にベントナイトを 1kg/m²投入もしくは、あぜ際から幅 2.5m×10m ベントナイト 25kg/袋を使用。
※ 散布時は粉塵に留意し、マスク、ゴーグルを着用してください。
- イ 作土とよく混和するようにほ場全体をロータリーで耕起(深さ 15cm 程度)する。
- ウ ドライブハローで丁寧な代かき(4回)を行う。